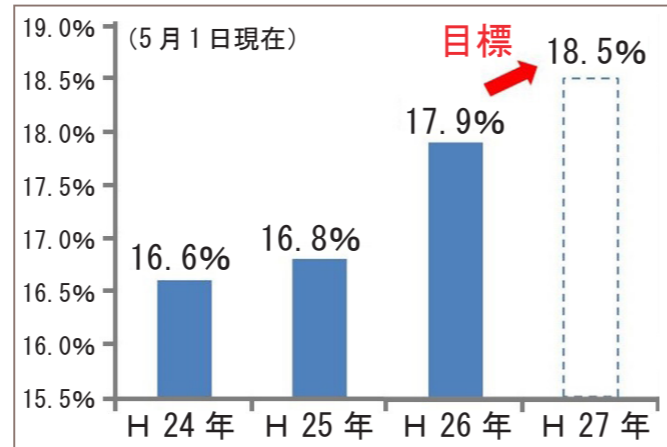




「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」（平成 24～26 年度）が終了します！

「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」では、本学における男女共同参画推進の基盤の構築および女性研究者在職比率を 18.5% にすることを目標として事業に取り組んできました。この取り組みでは男女共同参画に対する意識啓発活動のほか、女性研究者の働きやすい環境作りや、両立支援、ワーク・ライフ・バランスを推進することによって、男女が共に活躍できる職場環境の整備と女性研究者在職比率の目標値の達成に努めてきました。



補助金により男女共同参画推進室に「男女共同参画支援ステーション」を設け、両立支援、キャリア形成支援に関する情報提供の他、両立コンシェルジュデスクにおける相談業務を行ってきました。

事業実施期間中にはライフイベントを理由とする女性研究者の離職もなく、平成 27 年 1 月 1 日現在、女性研究者在職比率は 18.08% と 18% 台に乗ることができました。平成 27 年度も引き続き男女共同参画の推進に取り組み、男女共により活躍できる職場環境の整備および目標値の達成に努めてまいります。

「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」（平成 26～28 年度）が始まりました！

平成 26 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」を、徳島大学を代表機関、香川大学、愛媛大学及び高知大学を共同実施機関とし、鳴門教育大学を加えた四国国立 5 大学が連携して女性研究者支援を行います。



【事業概要】

- 女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産・子育て・介護等のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備等を行う取り組みを支援します。
- 大学や研究機関、企業等が連携し、女性研究者の研究力向上のための取り組み及び上位職への積極登用にに向けた取り組みを支援します。
  - 具体的には、
    - 連携シンポジウムの開催（年 1 回）
    - 四国国立 5 大学ポータルサイトの開設  
四国国立 5 大学が実施する各種セミナーを e-learning システムで配信の予定です。
    - ロールモデル集「Women and Men in 四国」の発行
    - 共同研究プロジェクト支援
      - ① 研究交流発表会で研究マッチング、② 女性研究者をプロジェクト・リーダーとする共同研究募集
    - 研究力向上セミナー
      - ① 英語論文書き方セミナー、② アサーションセミナー、③ コーチングセミナー等
    - 連携メンター制度の構築
    - 研究中断からの復帰支援などの実施を検討しています。
 また、これまで実施していましたが、大学自主経費で運用していきたいと思えます。引き続きのご理解とご支援をお願い申し上げます。

男女共同参画社会は社会の理解と環境整備から  
出産・育児を女性のキャリア形成のプラス要因にしよう

脇口 宏 学長



男女雇用機会均等法が制定されて 30 年が経過します。2006 年に改正され、2013 年を含めて一部改正が 2 回行われています。このように、何度も改正が行われることには、わが国における女性の社会進出の困難さと複雑さが反映されているのではないのでしょうか。それ故に、男女共同参画社会の実現に向けた国家的プロジェクトが、今なお必要で、国立大学においても国の支援による「女性研究者支援事業」が行われております。

わが国における男女共同参画の歩みがかくも遅いのは、家庭を持つ女性が社会で活躍する必須条件である、ライフ・イベントへの社会的理解や環境整備などが遅れていることによります。それは、若い男女が最も多く働いている東京では、出生率が極めて低いことにも表れており、最も高い生産的活動である出産・育児が、女性の仕事とキャリア形成に立ちはだかる壁になっております。

高知大学では、2012 年に「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、優れた女性研究者の育成に努めております。2014 年度には四国 5 大学連携事業も採択されました。私たちは、「高知大学における男女共同参画の基本理念・基本方針」に従って「男女共同参画の実践を教育に生かし、社会に広げる」ための体制作りを進めて参りました。

今後も地域を啓発し、地域と協働しながら、女性が当たり前前に社会で活躍できる男女共同参画社会の実現を推進して参ります。





## 共通教育科目「男女共同参画社会を考える」報告

高知大学では平成26年9月23日から26日の各日1～4限に、共通教育科目「男女共同参画社会を考える」を実施し、61人の学生が受講しました。男女共同参画社会について、日本社会の現実的課題を通じ、人文社会科学の多様な観点から学びました。

**【開講期間】**平成26年9月23日～26日 各日1～4限

**【授業概要】**男女共同参画社会について、日本社会の現実的課題を通じ、人文社会科学の多様な観点から学びます。



### 23日（火・祝）

- 1限 オリエンテーションと男女共同参画の基本 講義（人文 中川香代）
- 2限 法律から見た男女共同参画（教育 藤本富一）
- 3限 哲学から見た男女共同参画（男女共同参画支援ステーション長 小島優子）
- 4限 高知大学の男女共同参画（男女共同参画推進室長 廣瀬淳一）

### 24日（水）

- 1限 「男女共同のライフキャリア」をデザインする（株式会社ハナマルキャリア総合研究所 代表 上田晶美氏）
- 2限 3人3様のライフキャリア ～3人のゲストを交えた講義～（上田晶美氏）
- 3限 グループ・ディスカッション（上田晶美氏、人文 中川香代）
- 4限 ディスカッションの発表とまとめ（上田晶美氏、人文 中川香代）

### 25日（木）

- 1限 家族から見た男女共同参画（教育 森田美佐）
- 2限 労働環境から見た男女共同参画（高知労働局男女雇用均等室長 桑原光照氏）
- 3限 「これからの生き方・働き方」 講義&語り合いの男女会 Part1（立教大学 萩原なつ子氏）
- 4限 「これからの生き方・働き方」 語り合いの男女会 Part2（萩原なつ子氏、教育 森田美佐、人文 中川香代）

### 26日（金）

- 1限 男女共同参画とジェンダーの考え方いろいろ（人文 武藤整司）
- 2限 育児から見た男女共同参画（人文 岩佐和幸）
- 3限 試験（人文 中川香代）
- 4限 性犯罪被害とたたかうということ（性犯罪被害者支援活動「みかつき」運営 小林美佳氏）

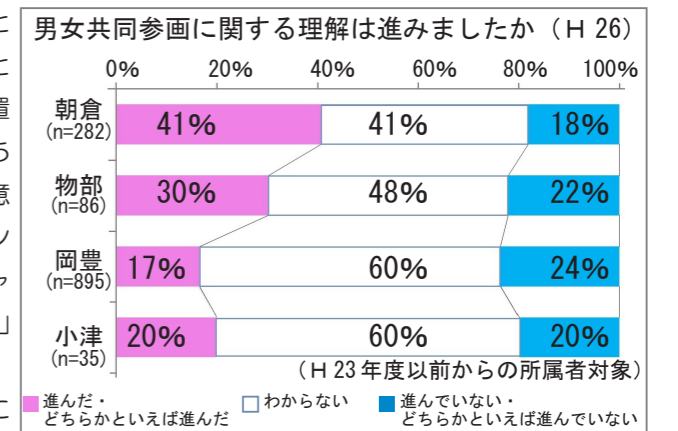


平成26年7月1日～18日に、「高知大学におけるワーク・ライフ・バランスに関する調査」を実施しました。ご協力頂いた皆さま、ありがとうございます。アンケートの目的は、学内の男女共同参画に関する意識と現状を把握することにより、今後の男女共同参画およびワーク・ライフ・バランス施策に役立てることです。調査対象は、大学教員、附属学校教員、医療技術職員、看護職員、医員、事務職員、大学院生の計3,283人です。アンケート方法については、職員に対してはアンケート用紙を配布し、大学院生に対してはアンケート用紙を添付したメールを配信しました。1,714人（女性1,082人、男性632人）から回答を得て、回答率は、52.2%でした。

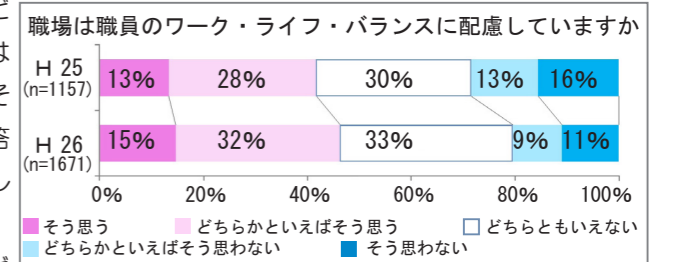
### 「女性研究者研究活動支援事業」（平成24～26年度）による効果

平成25年2月に実施した全学調査と平成26年7月に実施した全学調査の結果を比較しました。双方の調査対象および調査方法は同様にしました。

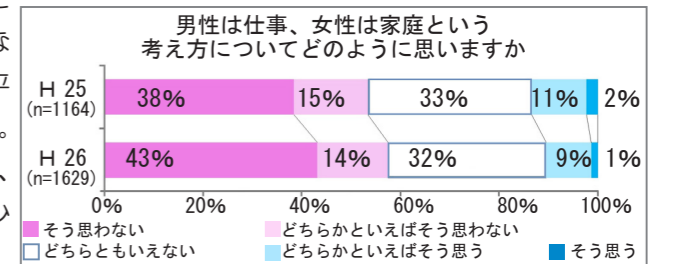
「男女共同参画推進室の設置前（平成23年度以前）と比較して、ご自身の男女共同参画に関する理解は進んだと思えますか」という質問では、男女共同参画推進室の設置されている朝倉キャンパスでは、41%が「進んだ・どちらかといえば進んだ」と回答しており、男女共同参画の意識啓発について、一定の効果が認められます。物部キャンパスでは、30%、岡豊キャンパスでは17%、小津キャンパスでは20%が「進んだ・どちらかといえば進んだ」と回答しています。



「あなたの職場は、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮していますか」という設問に対して、「そう思う・どちらかといえばそう思う」という回答は、平成25年は41%でしたが、平成26年は47%に増えました。「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」という回答は、平成25年の29%から平成26年は20%に減少しました。



「『男性は仕事、女性は家庭』という考え方について、どのように思いますか」という設問に対して、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と回答した者が、平成25年の53%から、平成26年は57%に増加しました。「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した者が、平成25年は13%でしたが、平成26年は10%に減少しました。



### 大学でワーク・ライフ・バランスを推進するために必要なもの

ワーク・ライフ・バランス推進に必要なものについての自由記述では、適切な人員配置や人員を充実させなければ、ワーク・ライフ・バランスを実現することは難しいという声が多くありました。また意識啓発活動が必要との意見も多くあり、特に管理職の意識改革や多様性への配慮が必要だという声がありました。さらに勤務制度については、業務の効率化や、有休取得の推進、柔軟な勤務時間を求める声が多くありました。

育児に関しては、子育てしやすい環境をつくることや、男性が育児しやすい職場環境、学内保育所や学童保育を必要とする意見がありました。

・適切な人員配置	41
・意識啓発活動	38
・業務の効率化	20
・有休取得の推進	18
・柔軟な勤務時間	17
・子育てしやすい環境	16
・業務の偏りをなくす	14
・男性が育児しやすい職場環境	12



## グレードアップ！英語論文 ～四国から世界へ羽ばたこう～

平成 26 年 12 月 17 日に男女共同参画推進室ではカクタス・コミュニケーションズ株式会社の協力により、ミリンダ・ハル先生をお招きして「グレードアップ！英語論文」セミナーを開催し、64 人の参加者を得ることができました。このセミナーは、博士課程の授業科目「DCセミナー」として開講したので、多数の大学院生の受講がありました。ハル先生は長年日本人に英語論文を指導してきた経験から、日本人が陥りやすい英語の誤りについてお話しされました。日本人には気づかない視点からの指摘が多くなされて、体系立てて英語論文の書き方を学ぶことができました。

英語論文を書く前に必要な準備と心構えとしては、参考文献や参考論文が紹介されました。英語の表記法から、パラグラフと文の構成、論文の問題設定と結論の持って行き方まで、これまで論文を書いたことの無い学生にも、例文を用いて分かりやすく説明されました。

日本語と英語とは語順が違うことから、日本人は「日本語的な英語」を書いてしまいがちです。しかし、英語はそもそも日本語と構造が異なるという「意識の転換」を図ることが、今回の講演の目的です。日本人研究者の英語論文を用いた事例研究では、実際に「日本語的な英語」を英語に直す作業が行われました。このために、日本人の書く論文にありがちなクセや誤りを、受講者は理解することができました。



## アサーション・トレーニングでキャリアアップ ～自分も大切にみんなも大切に～

平成 27 年 1 月 27 日に男女共同参画推進室では、高島克子先生（元東京女子大学教授）をお招きし、肯定的な自己表現であるアサーションを学ぶ講座を開催しました。自分もみんなも大切に自己表現を学ぶことで、目標設定やキャリア設定に役立てることを目的としました。

はじめに、男性と女性に見られるコミュニケーションの違いを学びました。女性は同調して友好的、穏やかであろうとすることに対して、男性は理由や論理にこだわり、攻撃的・権威的であろうとします。このような点に留意した上で、参加者は自分のアサーション度をチェックしました。

アサーションは、「主張的 (assertive)」に自分と他者を尊重して歩み寄るコミュニケーションです。「非主張的 (non-assertive)」なコミュニケーションでは自分の言いたいことが言えませんし、「攻撃的 (aggressive)」なコミュニケーションでは他者に対して支配的であろうとします。それに対して、アサーションはまず肯定的な気持ちを伝えてから、自分の言いたいことを明確にします。そして場合によっては否定的な気持ちも伝えます。このことによって自己肯定感が自分の中で高まり、相手との相互理解も深まっていくコミュニケーション方法です。

参加者はグループに分かれて、アサーションのロールプレイングを行いました。例えば、長電話を自分の方から切りたいけれど断れない場合や、友人にイベントに誘われたけれども断りたい場合などを、参加者が 2 人組になって、役柄を「非主張的」、「攻撃的」、「主張的」な場合それぞれで演じ分けました。グループの他の人は、演じている 2 人を見てどのように感じたかを述べました。参加者は自分の発した言葉で相手がどのように感じたかを知ることで、アサーションとそれ以外のコミュニケーションの違いを実際的に理解することができました。例えば、断る場合には「誘ってもらったことは嬉しいのだけど」と肯定的な言葉をはじめに言うことが大事なことや、相手のことを考えて言葉を発するのが大切なことを学ぶことができました。

## キャリア・ジャングルジム

平成 26 年 9 月 24 日（水）、株式会社ハナマルキャリア総合研究所代表で、財団法人女性労働協会理事の上田晶美（うへだ あけみ）さんをお招きし、「キャリア・ジャングルジム」を開催しました。

このセミナーは、社会の変革期を迎え、職場のあり方や個人の働き方も変化の過渡期にある時代において、学生が男女共同参画の視点と当事者意識を持って、「働く」について考えることを目的に企画されました。

セミナーのタイトルである「キャリア・ジャングルジム」には、垂直に上昇するキャリアだけでなく、状況に応じて工夫しながら色々なルートで登って行けるキャリアも念頭に置いて自分に合ったキャリア・デザインを考えてほしいとの願いが込められています。



パネルディスカッションでは、高知市の株式会社ファースト・コラボレーション代表取締役社長の武樋泰臣さん、「月刊お母さん業界新聞・高知版」編集長で、「子育て支援ろばみみ」を運営している、高木真由美さん、学校法人高知学園高知小学校教諭の渡辺一平さんにキャリアと生活についてそれぞれの経験をお話いただきました。

このセミナーは、こうち男女共同参画センターソーレの共催で企画され、平成 26 年度共通教育「男女共同参画社会を考える」と連携することで実現しました。この授業の履修生は「キャリア・ジャングルジム」への参加が出席日数に考慮されます。今回は 61 人の履修登録があり、男子学生の参加が目立ちました。

## 男女共同参画ワールド・カフェ

### 「これからの生き方・働き方」を語り合う 男子会×女子会

平成 26 年 9 月 25 日（木）、講師に立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授で、日本 NPO センター常務理事の萩原なつ子さんをお招きし、「ワールド・カフェ 男子会×女子会」を開催しました。

このセミナーは、学生が男女共同参画の視点と当事者意識を持ち、「対話」を通して「働く」について考えることを目的に企画されました。ワールド・カフェは、「知識や知恵は機能的な会議室で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる、まるでカフェのようなリラックスした空間でこそ創発される」という考えに基づいた話し方の手法です。



ワールド・カフェの手法を取り入れることによって、話し合いに苦手意識を感じている学生も、積極的に話し合いを持つようでした。

高知大学は、平成26年11月28日(金)に「第6回中国四国男女共同参画シンポジウム ギアチェンジ! 共に働く時代の男女共同参画社会～「男働き」社会の見直しと女性のキャリア形成のこれから～」を中国四国地区の国立大学の協力を得て実施いたしました。シンポジウムには中国四国地区の大学関係者の他、行政機関、教育機関から159人の参加がありました。

開会に際しまして、高知大学の脇口宏学長は「女性が社会から正しく評価されて楽しく生活することで、豊かな社会づくりに邁進できるような環境構築につながることを祈念します」と挨拶を述べました。来賓挨拶では、高知県文化生活部の岡崎順子部長より、尾崎正直高知県知事のメッセージを代読していただきました。続いて、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室の近藤潤室長補佐より来賓挨拶をいただきました。



### 基調講演

基調講演では、文化人類学者で城西国際大学客員教授の原ひろ子先生から、「科学・技術コミュニティにおける男女共同参画～女性研究者のキャリアとその位置づけ～」と題するお話がありました。原先生は、わが国の科学・技術コミュニティにおける男女共同参画について、国際社会の動向を交えながら時系列に説明されました。原先生のお話からは、科学・技術コミュニティにおける男女共同参画に当事者として関わってきたことによる歴史の細部がリアリティをまもって伝わってきました。



### 特別講演

特別講演では、京都大学大学院文学研究科教授の伊藤公雄先生から、「男性にとっての男女共同参画 男性学・男性性の視点から」と題するお話がありました。伊藤先生からは、日本における女性の社会進出が西欧諸国に比べて遅れているという指摘があるが、1960年代～70年代ごろまではむしろ西欧諸国の方が遅れていた部分も多く、現在の日本における「働き方」は決して普遍的なモデルではないというお話がありました。



1970年代の国際的な経済不況で、西欧社会が女性の社会参画や「働き方」の改善に取り組んでいった他方で、日本は「人口ボーナス」時代となり、終身雇用、年功序列、長時間労働の「働き方」が定着し、それを支える専業主婦が一般的になった。伊藤先生によれば、このような「働き方」による高度経済成長の成功体験が、成熟社会に入った日本社会においてもその変化を妨げている要因の一つであり、「働き方」を見直す必要があると言います。

伊藤先生は、男女ともに社会参加と個人生活のバランスが取れた、多様性と人と人の絆に支えられた男女共同参画社会の実現が必要で、「二色刷社会」を「単色社会」にするのではなく、「多色刷社会」にしていくことが大切と強調されました。

### 実践交流

実践交流では、「中国四国地方から発信する男女共同参画の取組」をテーマとし、高知大学の中川香代男女共同参画部門長をコーディネーターとして、広島大学、岡山大学、徳島大学の各大学より報告がありました。

また、城西国際大学の原ひろ子先生、文部科学省人材政策推進室の近藤潤室長補佐にはコメントをお願いいたしました。



広島大学男女共同参画推進室長の中坂恵美子先生から「地域と協働する男女共同参画の取組～広島大学の拠点型事業から～」と題する報告がありました。報告では、平成19年度に採択された「女性研究者支援モデル育成」による女性研究者のリーダーシップの育成、平成22年度に採択された「女性研究者養成システム改革加速」による女性研究者活躍促進の取り組みを土台とした産学官連携による拠点型事業についてお話がありました。



岡山大学男女共同参画室長の富岡憲治先生からは、「岡山大学における女性研究者支援と男女共同参画」と題する報告がありました。そして、その中で、学都・岡大発女性研究者が育つ進化プランに触れて、女性研究者を育てるWTT(ウーマン・テニユア・トラック)の制度についてお話がありました。



徳島大学AWAサポートセンター長の山内あい子先生より、「四国5大学連携による女性研究者活躍推進コンソーシアム形成事業」と題する報告がありました。ここではこれまでの四国5大学における男女共同参画の取り組みと連携について触れ、四国5大学学長会議を契機に文部科学省に申請した女性研究者研究活動支援事業(連携型)に採択されたことが紹介されました。そして、徳島大学を基幹校に、愛媛大学、香川大学、高知大学が連携して女性研究者支援に取り組んでいく計画について報告がありました。



閉会のあいさつでは、高知大学の櫻井克年理事が、「人と地域とのコミュニケーションを大切にしながら、内でも外でも共に働く、という仕組みづくりが今後一層重要になる気がします」と述べ、共に働く時代の「働き方」を社会全体で考え共有できるような取り組みの必要性を強調されました。